

経営比較分析表（平成30年度決算）

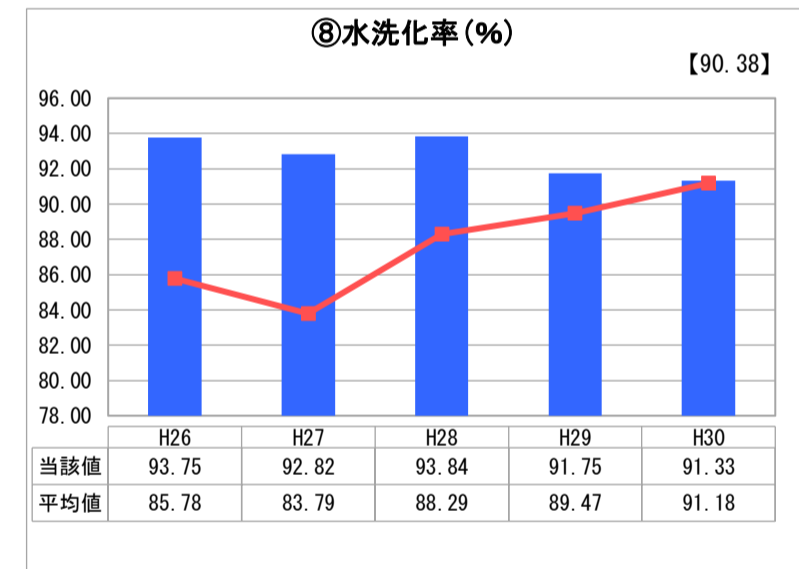
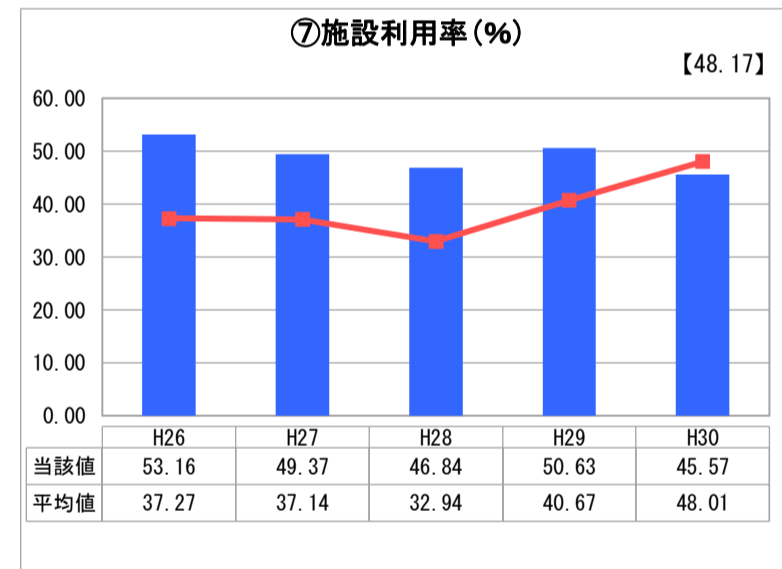
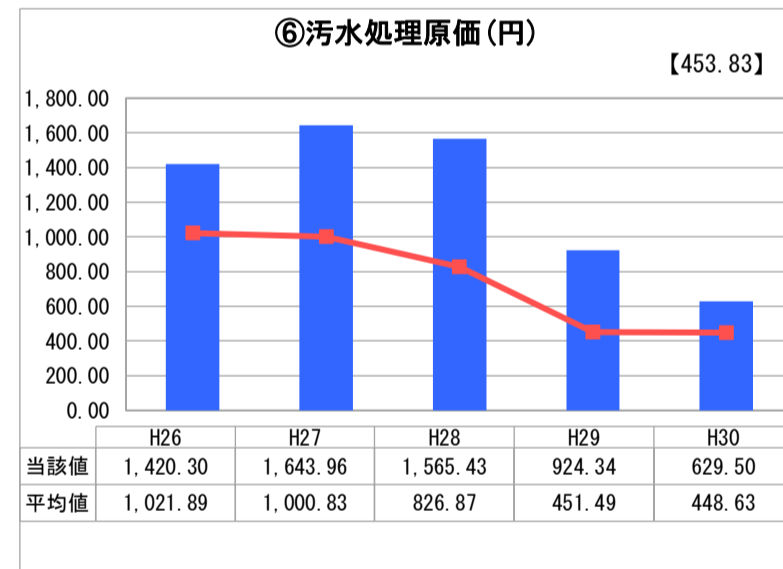
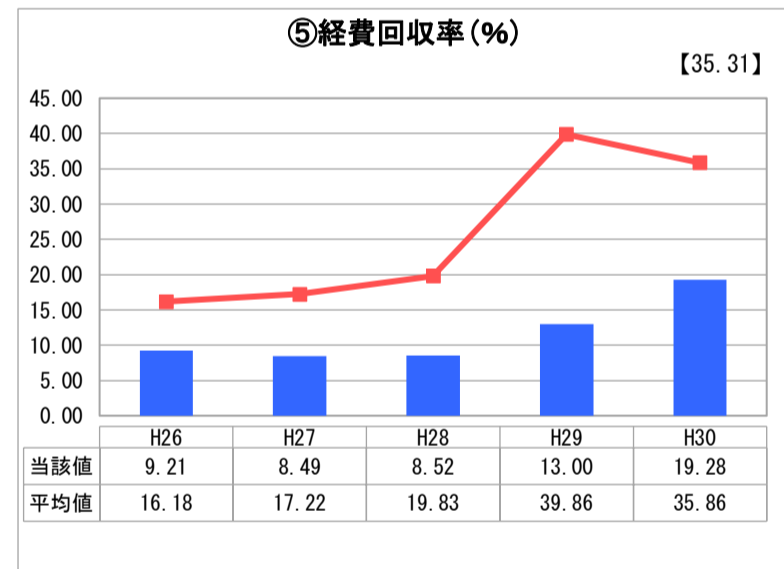
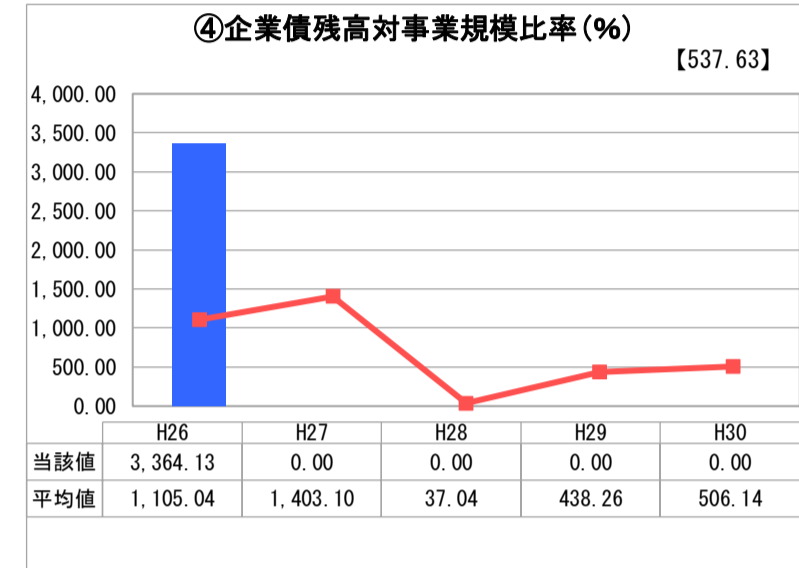
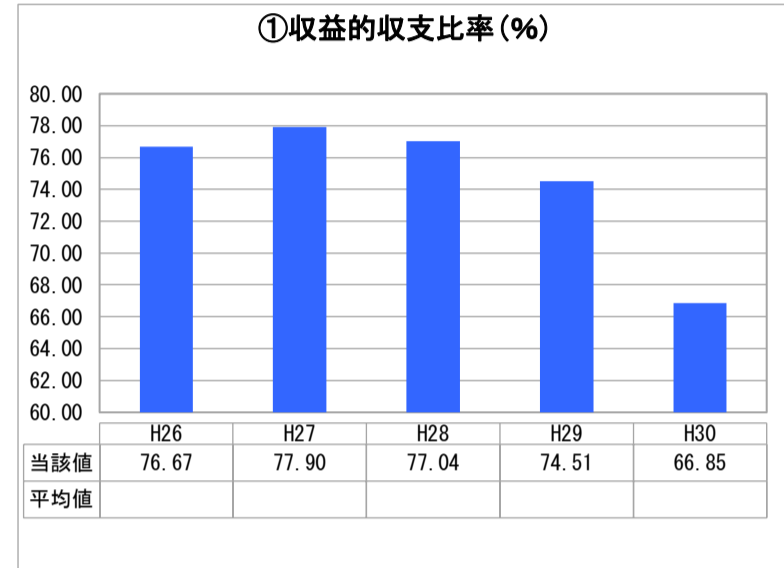
福井県 福井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	林業集落排水	G2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.07	121.37	2,570

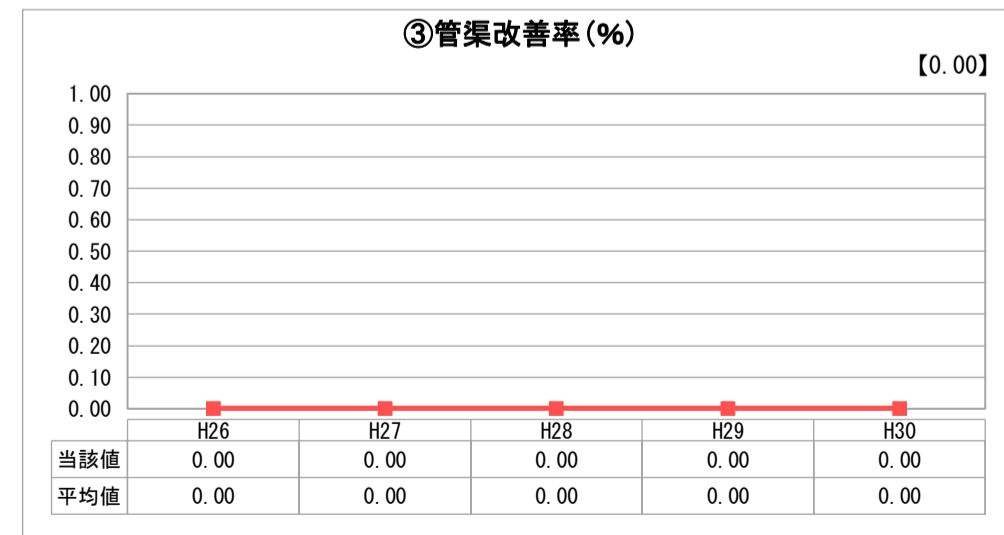
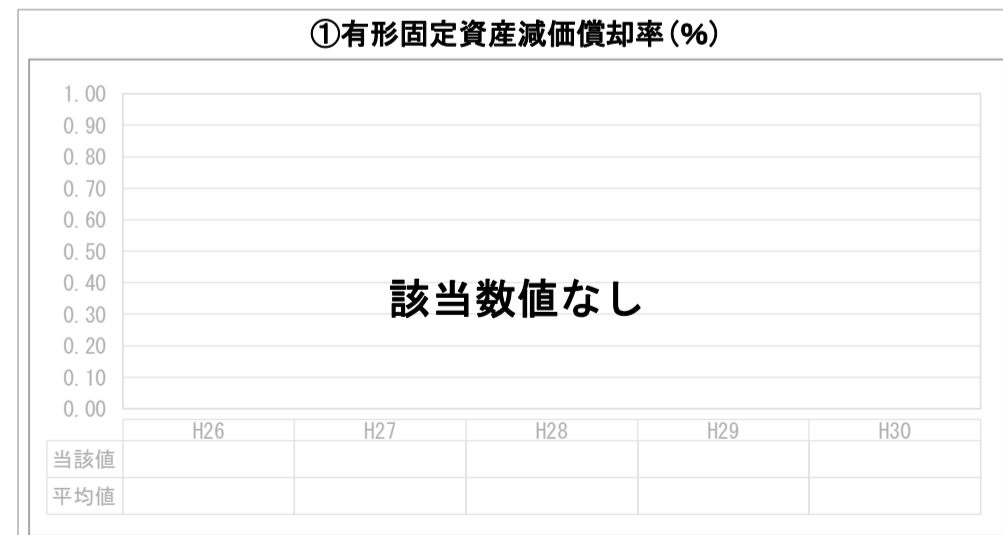
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
264,356	536.41	492.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
196	0.13	1,507.69

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率及び⑤経費回収率ともに100%を下回っており、適正な使用料収入の確保が必要な状況である。
 ④企業債残高対事業規模比率は算出方法の見直しにより0%となっている。
 ⑤経費回収率が100%を下回っており、かつ⑥汚水処理原価が類似団体平均値と比較して高くなっていることから、効率的な汚水処理が実施されていない状況であるといえる。
 ⑦施設利用率は類似団体平均値を下回っており、人口減少等により今後減少していくと予想される。
 ⑧水洗化率は類似団体平均を上回っている。これは、平成15年に供用を開始して以降、一定の年数が経過していることもあって比較的高い数値を示している状況である。

2. 老朽化の状況について

③管渠改善率について、現時点において管渠の耐用年数である50年を経過した管渠は存在していないため、管渠の更新は実施していない。しかし、今後は経年劣化に伴う管渠の老朽化対策や更新の需要が増すことから、要補修箇所への把握に努める必要がある。

全体総括

各指標を総括すると、適正な使用料収入が確保できていないことにより効率的な汚水処理が実施されていない状況から収益的収支比率が100%を下回っており、本事業の経営状況は非常に厳しいものとなっている。
 今後は、人口減少や節水機器の普及に伴う使用料収入の減少とともに、施設の老朽化に伴う維持管理費の増加が見込まれることから、より効率的な経営に取り組む必要がある。
 なお、使用料については平成31年度より約20%増の料金改定を行ったため、次年度決算より反映される見込みである。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。